

# 2022年度 第1四半期決算報告

地球に提案だ。



挑戦の先に答えはある。

**ZEON**

2022年7月28日  
日本ゼオン株式会社

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）
- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）
- P.8 エラストマー素材 概況
- P.9 エラストマー素材 P/L
- P.10 エラストマー素材 営業利益差異
- P.13 高機能材料 P/L
- P.14 高機能材料 営業利益差異
- P.16 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.17 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
- P.20 B/S概要
- P.21 C/F概要
- P.23 2022年度上期 事業環境
- P.24 2022年度 業績予想
- P.25 2022年度 配当金予想

## 【総括】

- ◆ Q1連結実績は対前年同期で増収減益、対前期で増収増益
- ◆ 新型コロナウイルスの感染拡大により、調達に軽微な影響は続くも生産への影響はない

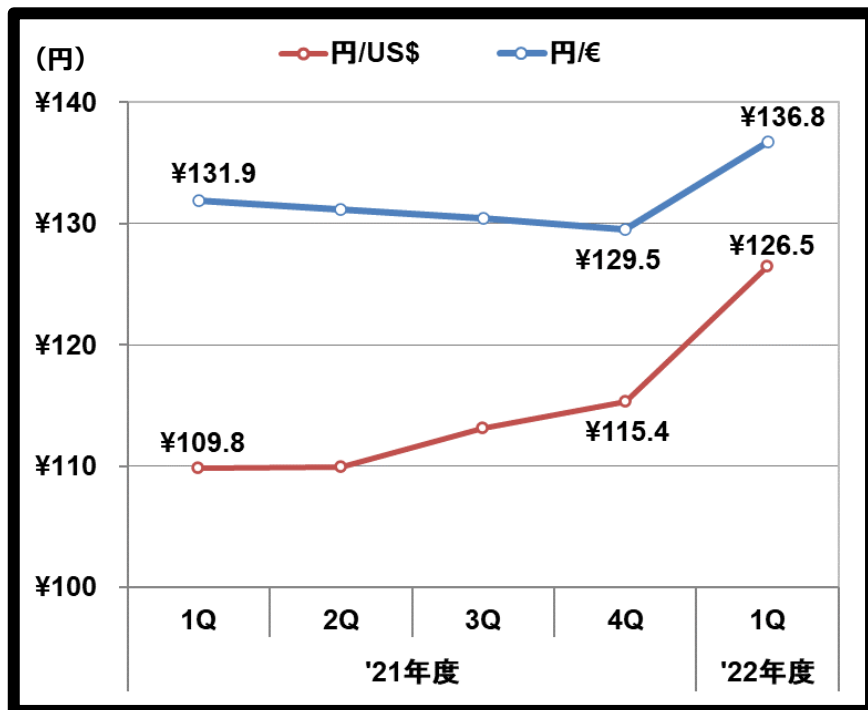
## 【エラストマー素材の概況】

- ◆ 原料価格高騰に伴い販売価格の改定が進み、QoQは増収増益となるも、ラテックスの出荷減および価格鎮静化によりYoYは増収減益
- ◆ 合成ゴムは主力工場の定期修繕に向けて、出荷量および在庫調整を実施

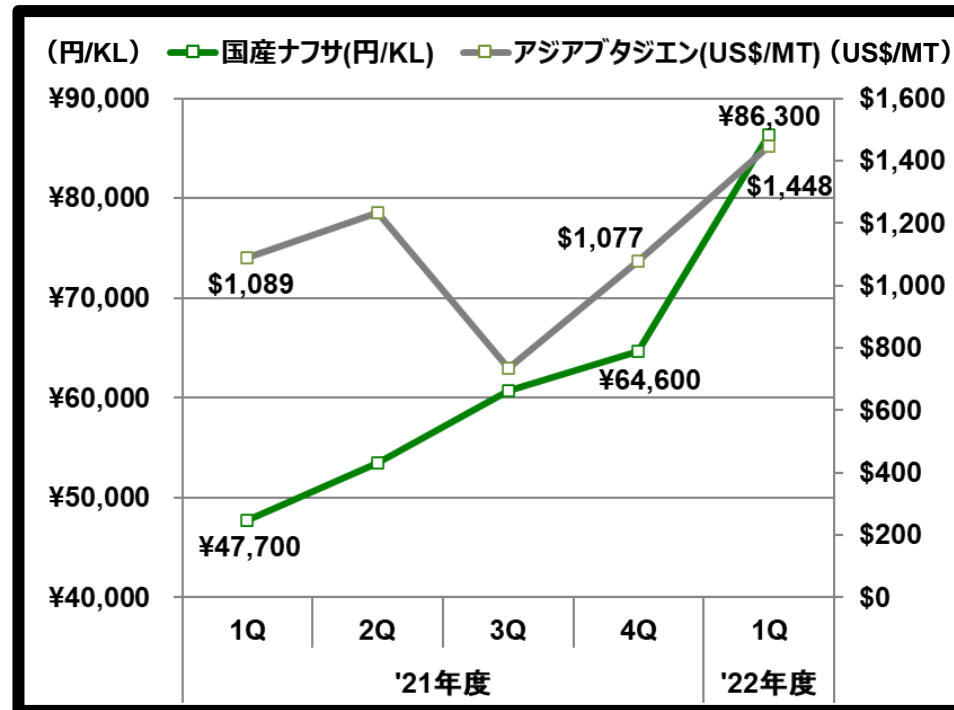
## 【高機能材料の概況】

- ◆ YoY・QoQともに増収、営業利益はQoQで増益となるも、原料価格高騰の影響でYoYは減益
- ◆ 電池材料・化学品・光学フィルムを中心に需要は堅調

## 【為替推移】



## 【主原料推移】



		2021年度 Q1	2021年度 Q4	2022年度 Q1	YoY 変化率	QoQ 変化率
為替	円/US\$	¥109.8	¥115.4	¥126.5	+15%	+10%
	円/€	¥131.9	¥129.5	¥136.8	+4%	+6%
主原料	国産ナフサ/KL	¥47,700	¥64,600	¥86,300	+81%	+34%
	アジアブタジエン/MT	\$1,089	\$1,077	\$1,448	+33%	+34%

※国産ナフサ：2021年度Q1及び2021年度Q4は確報値、2022年度Q1は当社見込値

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）
- P.5 業績サマリー（全体）**
- P.6 業績サマリー（セグメント別）**
- P.8 エラストマー素材 概況
- P.9 エラストマー素材 P/L
- P.10 エラストマー素材 営業利益差異
- P.13 高機能材料 P/L
- P.14 高機能材料 営業利益差異
- P.16 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.17 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
- P.20 B/S概要
- P.21 C/F概要
- P.23 2022年度上期 事業環境
- P.24 2022年度 業績予想
- P.25 2022年度 配当金予想

(単位：億円)

	前年同期	前期	今期	対前年同期	対前期
	2021年度 Q1	2021年度 Q4	2022年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
売上高	872	930	976	+104	+46
営業利益	139	80	107	▲31	+27
経常利益	148	103	129	▲19	+26
当期純利益	101	60	87	▲13	+27

- 前年同期比           : 売上高 +104億円、営業利益 ▲31億円
- 前期比                : 売上高 +46億円、営業利益 +27億円

注記：海外関係会社の2022年1～3月実績がQ1連結決算に反映されています。

（単位：億円）

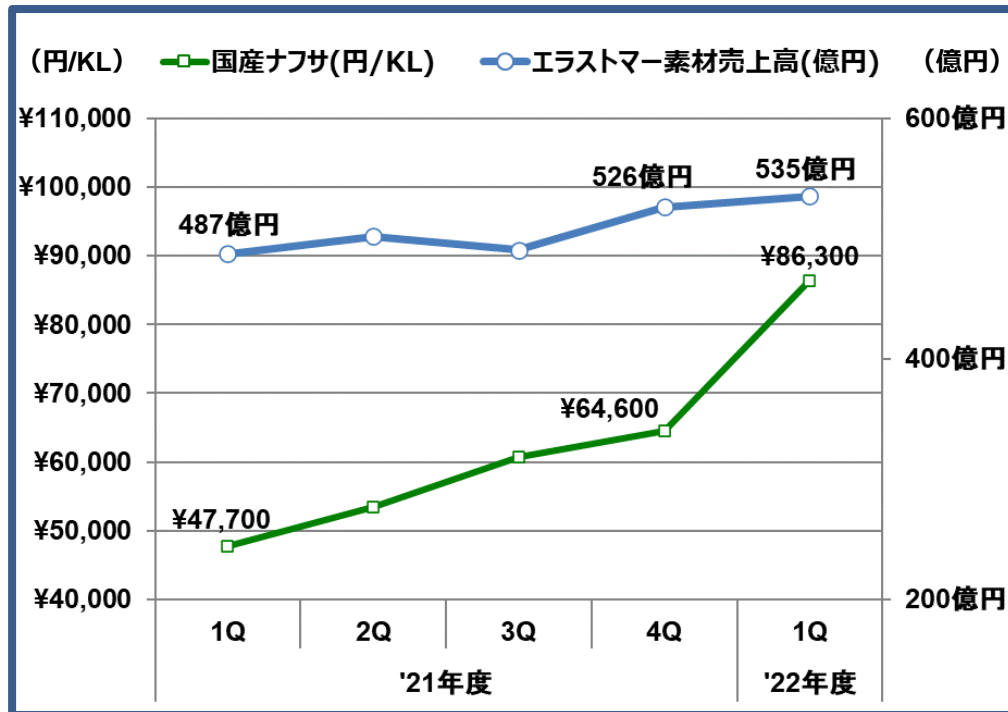
【売上高】	2021年度 Q1	2021年度 Q4	2022年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	487	526	535	+48	+9
高機能材料	252	265	301	+49	+36
その他の事業、消去等	133	139	140	+7	+1
売上高合計	872	930	976	+104	+46

【営業利益】	2021年度 Q1	2021年度 Q4	2022年度 Q1	YoY 増減	QoQ 増減
エラストマー素材	61	27	41	▲20	+14
高機能材料	78	60	70	▲8	+10
その他の事業、消去等	0	▲6	▲3	▲3	+3
営業利益合計	139	80	107	▲31	+27

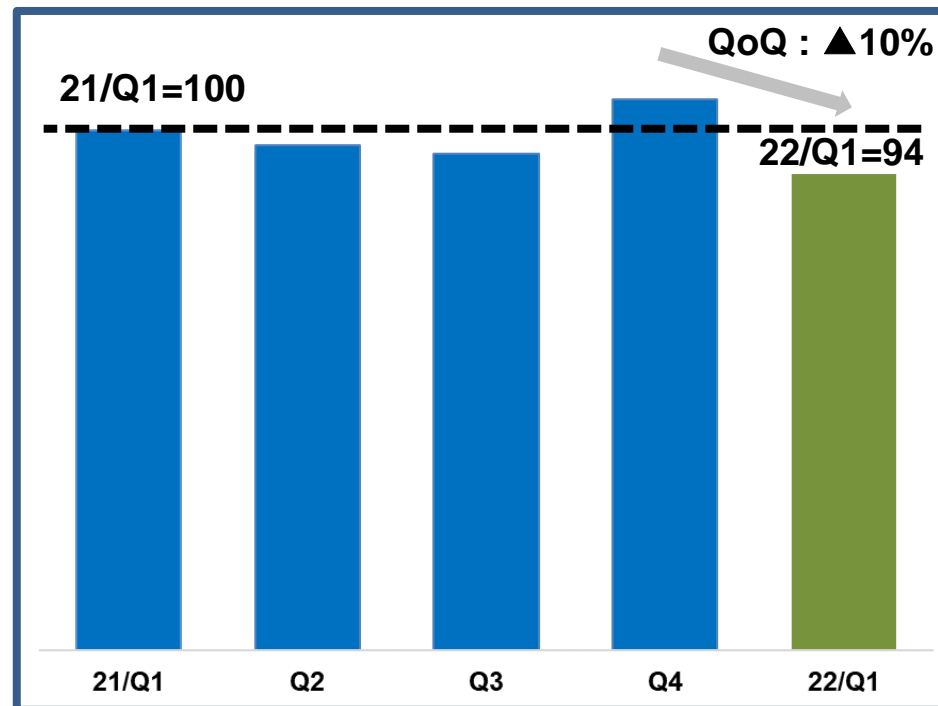
- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）
- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）
- P.8 エラストマー素材 概況**
- P.9 エラストマー素材 P/L**
- P.10 エラストマー素材 営業利益差異**
- P.13 高機能材料 P/L
- P.14 高機能材料 営業利益差異
- P.16 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.17 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
- P.20 B/S概要
- P.21 C/F概要
- P.23 2022年度上期 事業環境
- P.24 2022年度 業績予想
- P.25 2022年度 配当金予想



## 【国産ナフサ価格とエラストマー売上高推移】



## 【合成ゴム出荷量推移】



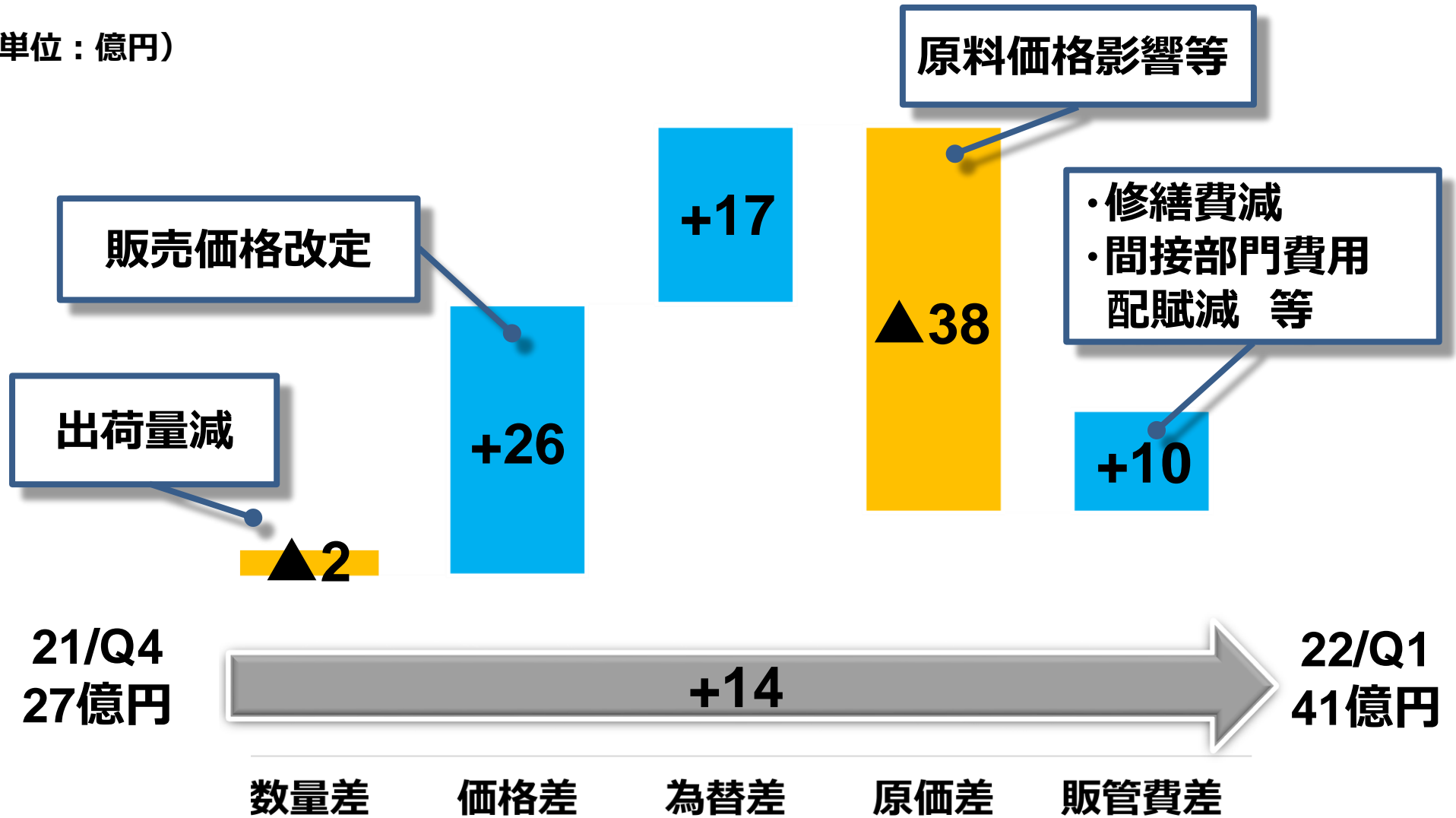
- 国産ナフサ価格上昇に伴い販売価格の改定が進むも、ラテックス減収によりQoQの売上高は微増
- 合成ゴムは主力工場の定期修繕に向けて出荷量を調整、YoY・QoQともに出荷減

(単位：億円)	2021年度 Q1	2021年度 Q4	2022年度 Q1	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
<b>出荷量 (21/Q1=100)</b>	100	97	86	▲ 14 pt	▲ 14 %	▲ 10 pt	▲ 11 %
合成ゴム	100	104	94	▲ 6 pt	▲ 6 %	▲ 10 pt	▲ 10 %
ラテックス	100	73	60	▲ 40 pt	▲ 40 %	▲ 13 pt	▲ 18 %
化成品	100	102	94	▲ 6 pt	▲ 6 %	▲ 8 pt	▲ 8 %
<b>売上高</b>	487	526	535	48	10 %	9	2 %
合成ゴム	308	354	374	66	22 %	20	6 %
ラテックス	76	46	36	▲ 40	▲ 52 %	▲ 10	▲ 21 %
化成品	95	116	116	21	23 %	0	0 %
その他・消去	8	10	9	0	4 %	▲ 2	▲ 16 %
<b>営業利益</b>	61	27	41	▲ 20	▲ 33 %	14	51 %
営業利益率	12%	5%	8%				

- **出荷量** : ラテックスの流通在庫過多継続、YoY・QoQともに減少
- **売上高** : 合成ゴム・化成品は販売価格の改定が進み、YoY・QoQともに増加
- **営業利益** : ラテックス出荷減および価格鎮静化でYoYは減少  
修繕・間接部門費用配賦減等の影響でQoQは増加

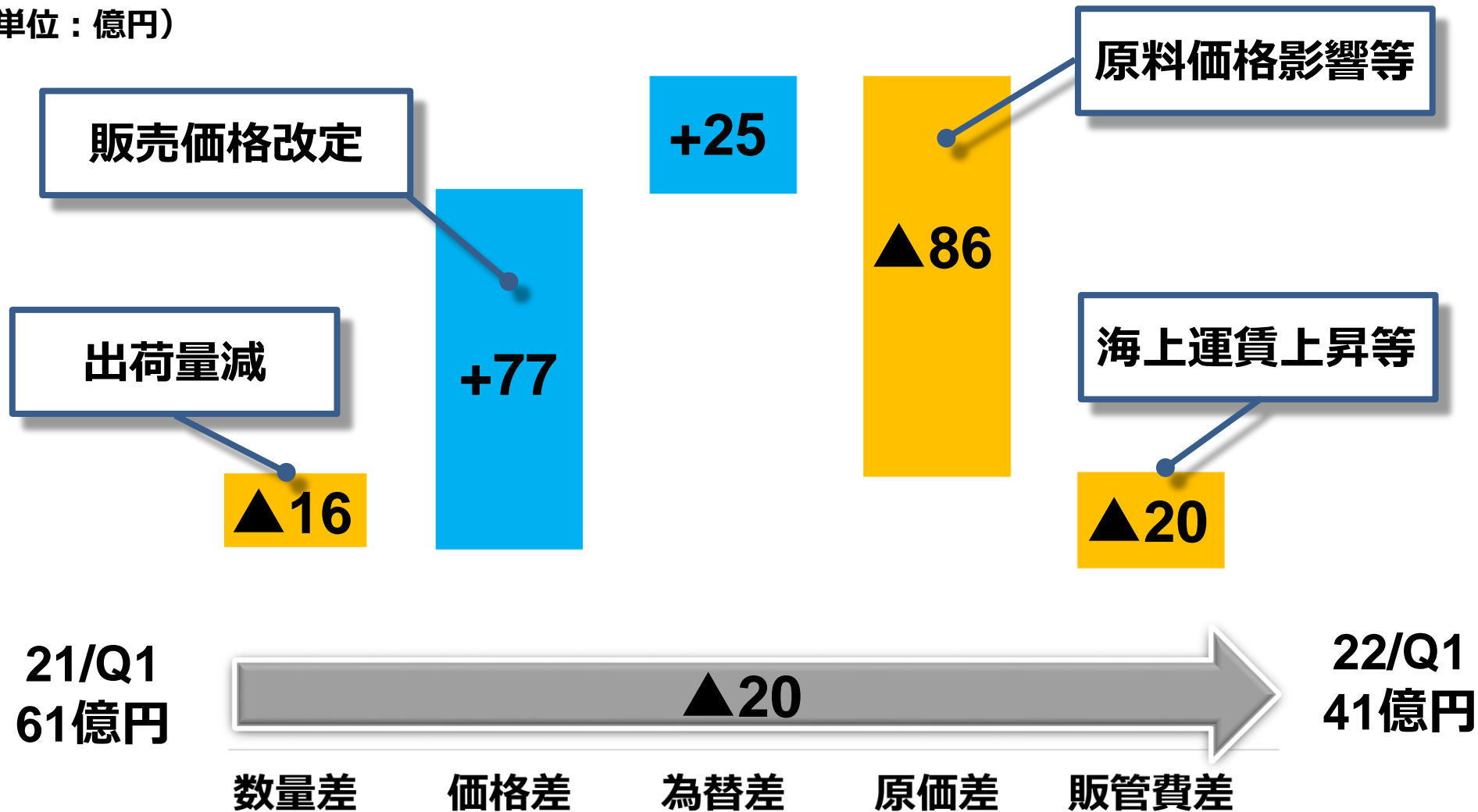
# エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (QoQ) ZEON

(単位：億円)



# エラストマー素材事業：要因別 営業利益差異 (YoY) ZEON

(単位：億円)



- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）
- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）
- P.8 エラストマー素材 概況
- P.9 エラストマー素材 P/L
- P.10 エラストマー素材 営業利益差異
- P.13 **高機能材料 P/L**
- P.14 **高機能材料 営業利益差異**
- P.16 **高機能ケミカル事業：電池材料の状況**
- P.17 **高機能樹脂事業：光学樹脂の状況**
- P.18 **高機能樹脂事業：光学フィルムの状況**
- P.20 B/S概要
- P.21 C/F概要
- P.23 2022年度上期 事業環境
- P.24 2022年度 業績予想
- P.25 2022年度 配当金予想

(単位：億円)	2021年度 Q1	2021年度 Q4	2022年度 Q1	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
売上高	252	265	301	49	20 %	36	14 %
※ 高機能樹脂	156	151	177	21	14 %	26	17 %
高機能ケミカル	83	101	113	30	37 %	13	12 %
メディカル他	13	14	11	▲ 2	▲ 18 %	▲ 3	▲ 21 %
営業利益	78	60	70	▲ 8	▲ 10 %	10	17 %
営業利益率	31%	23%	23%				

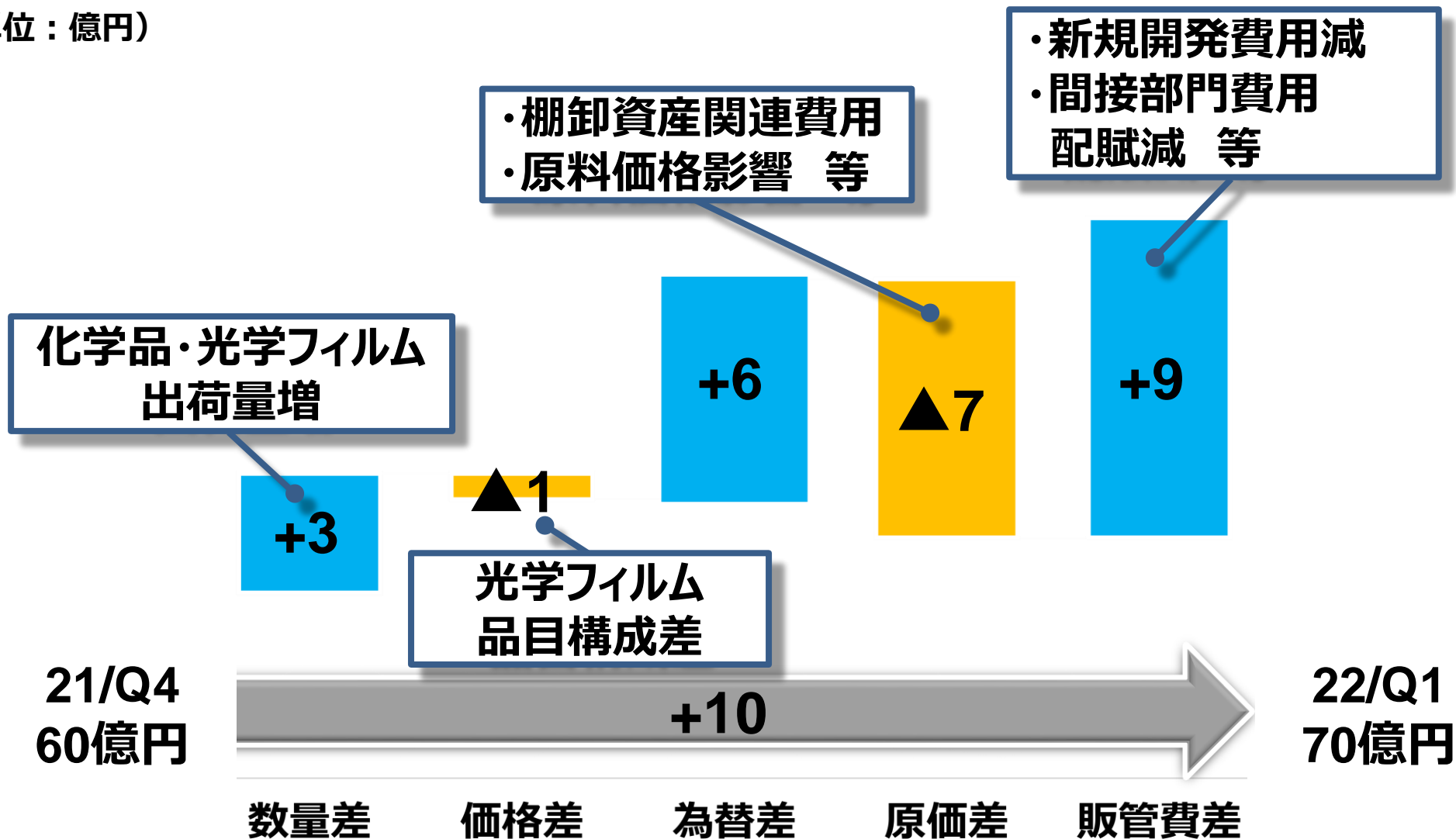
※ 高機能樹脂 : 光学樹脂、光学フィルム  
高機能ケミカル : 電池材料、化学品、電子材料、トナー

- 売上高
- 高機能樹脂 : YoYは光学樹脂価格改定、QoQは中小型向け光学フィルムの出荷回復により、YoY・QoQともに増加
- 高機能ケミカル : 電池材料および化学品香料の出荷増により、YoY・QoQともに増加
- 営業利益は原料価格高騰でYoYは減少、中小型向け光学フィルムの出荷回復でQoQは増加

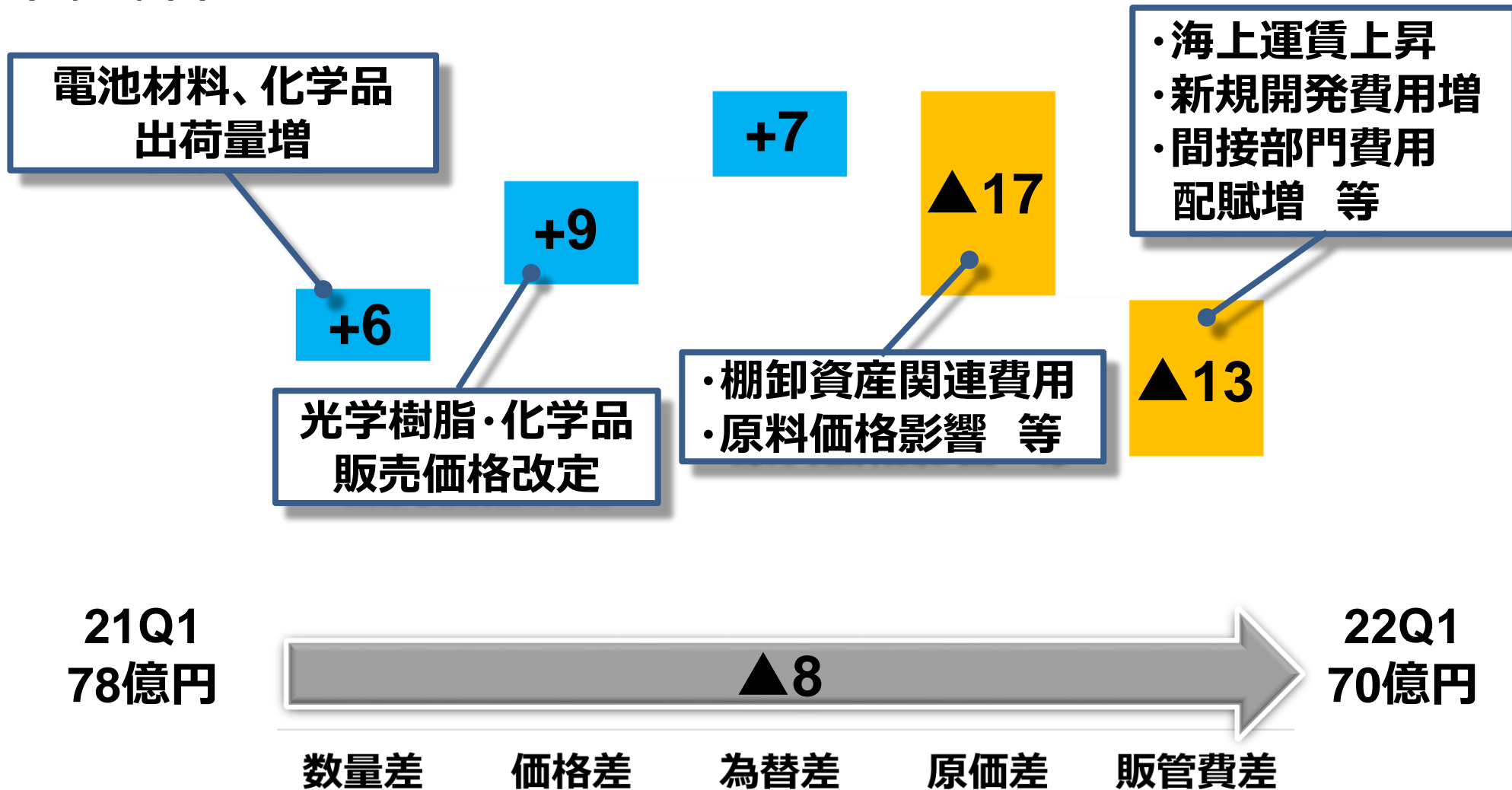
# 高機能材料事業：要因別 営業利益差異 (QoQ)

ZEON

(単位：億円)



(単位：億円)





	YoY	QoQ
EV向け	135%	106%
民生他向け	62%	78%
全体	116%	101%

## ■ EV向け

中国ロックダウン、LIB原料価格高騰等の影響を一部受けるも、中国・欧米向けを中心にEV・PHVの拡大に伴い需要は堅調

## ■ 民生他向け

家電およびモバイル端末向けの需要一巡、一服感継続  
産業用途（ESS）は堅調

	YoY	QoQ
光学用途向け	78%	71%
医療、その他向け	115%	78%
全体	102%	76%

## ■ 光学用途向け

スマホ・プリンター共にCovid-19および半導体不足影響により顧客の稼働が落ち込み需要減

## ■ 医療、その他向け

プレフィルドシリンジ等医療包装容器及び半導体用途で需要堅調  
生産・物流要因による前期まとめ出荷の影響でQoQ出荷減

	YoY	QoQ
中小型向け	105%	131%
大型向け	100%	98%
全体	101%	104%

## ■ 中小型向け

スマホ向け次期モデル立ち上げ生産回復により出荷増  
タブレット・ノートPC向け堅調も、Q2以降で需要一服の見込

## ■ 大型向け

市場のパネル在庫調整でYoY・QoQともに横ばい  
在庫調整継続でQ2は出荷減継続、回復はQ3の見込み

- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）
  
- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）
  
- P.8 エラストマー素材 概況
- P.9 エラストマー素材 P/L
- P.10 エラストマー素材 営業利益差異
  
- P.13 高機能材料 P/L
- P.14 高機能材料 営業利益差異
- P.16 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.17 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
  
- P.20 B/S概要**
- P.21 C/F概要**
  
- P.23 2022年度上期 事業環境
- P.24 2022年度 業績予想
- P.25 2022年度 配当金予想

## 総資産4,981億円 (+134)

【流動資産】 +64億円

- ◆ 現預金 ▲175億円
- ◆ 売掛債権 +72億円
- ◆ 未収入金 +55億円
- ◆ 棚卸資産 +127億円

流動資産  
2,814  
(+64)

固定資産  
2,167  
(+70)

【固定資産】 +70億円

- ◆ 有形固定資産 +25億円
- ◆ 投資有価証券 +29億円

【流動負債】 +75億円

- ◆ 買入債務 +170億円
- ◆ 社債 ▲100億円

流動負債  
1,461  
(+75)

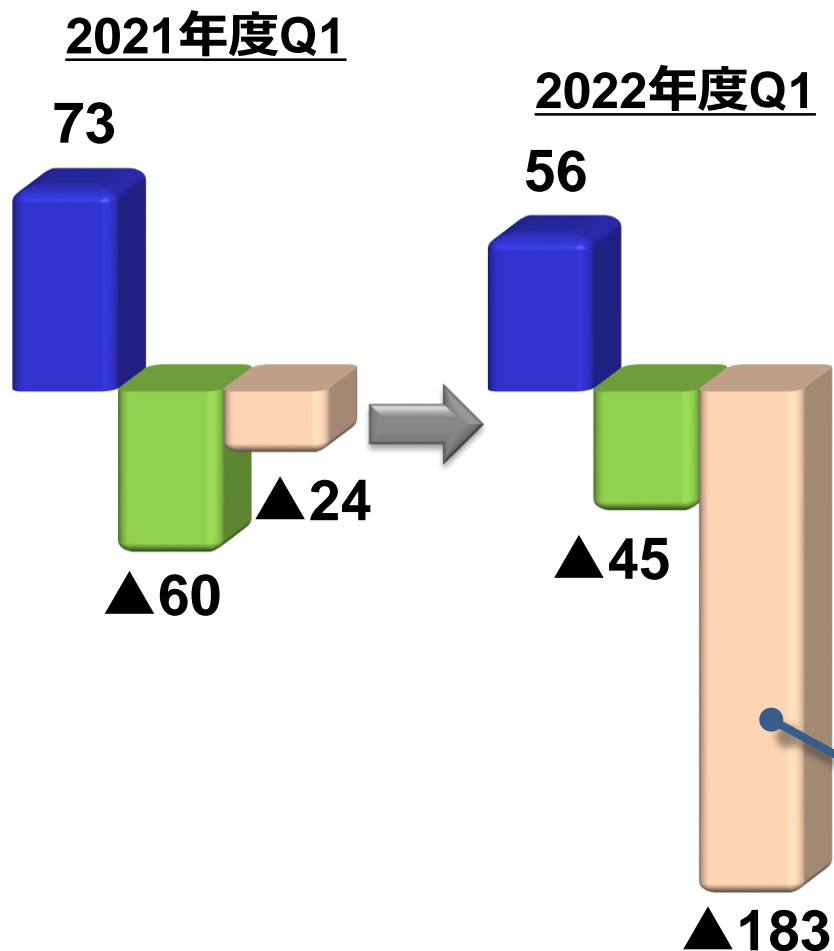
固定負債 239 (▲3)

純資産  
3,281  
(+62)

【純資産】 +62億円

- ◆ 自己資本比率 65.2% (▲0.6)
- ◆ D/Eレシオ 0.03 (▲0.03)

(単位：億円)



(単位：億円)

	2021年度Q1	2022年度Q1
営業CF	73	56
投資CF	▲ 60	▲ 45
フリーCF	12	10
財務CF	▲ 24	▲ 183
CF	▲ 12	▲ 173

■ 営業CF   ■ 投資CF   ■ 財務CF

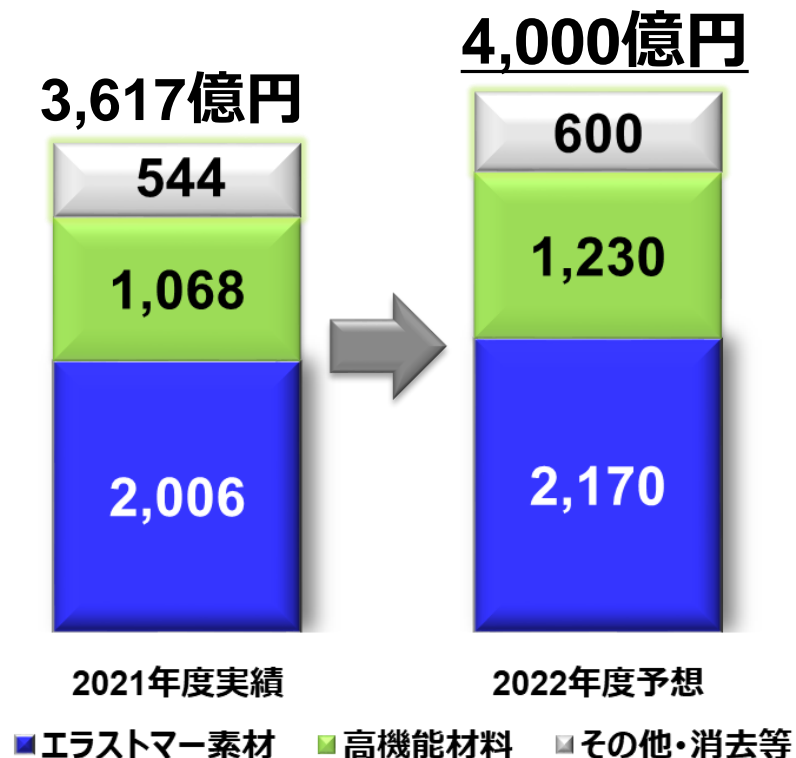
- P.2 総括とセグメントの概況
- P.3 事業環境（為替・主原料推移）
- P.5 業績サマリー（全体）
- P.6 業績サマリー（セグメント別）
- P.8 エラストマー素材 概況
- P.9 エラストマー素材 P/L
- P.10 エラストマー素材 営業利益差異
- P.13 高機能材料 P/L
- P.14 高機能材料 営業利益差異
- P.16 高機能ケミカル事業：電池材料の状況
- P.17 高機能樹脂事業：光学樹脂の状況
- P.18 高機能樹脂事業：光学フィルムの状況
- P.20 B/S概要
- P.21 C/F概要
- P.23 2022年度上期 事業環境**
- P.24 2022年度 業績予想**
- P.25 2022年度 配当金予想**

		2022年度 上期着地予想		2022年度上期事業環境
(億円)	売上 予想	営利 予想		
	1,990	215		
エラストマー 素材			合成ゴム：需要堅調、販売価格改定により <b>売上・営利増</b> ラテックス：流通在庫過多長期化で <b>売上・営利減</b> 化成品：出荷減も価格改定で <b>売上想定通り</b> 包装材高騰で <b>営利減</b>	
高機能 材料			光学樹脂：スマホ向け需要鈍化も医療その他用途向け堅調 <b>売上想定通り</b> 、原料価格高騰で <b>営利減</b> 光学フィルム：大型TVパネル在庫調整、タブレット・ノートPC の在宅・教育関連需要振るわず、 <b>売上・営利減</b> 化学品：需要堅調で <b>売上・営利増</b> 電池材料：中国ロックダウン等の影響で、 <b>売上・営利減</b> トナー：需要堅調で <b>売上・営利増</b>	

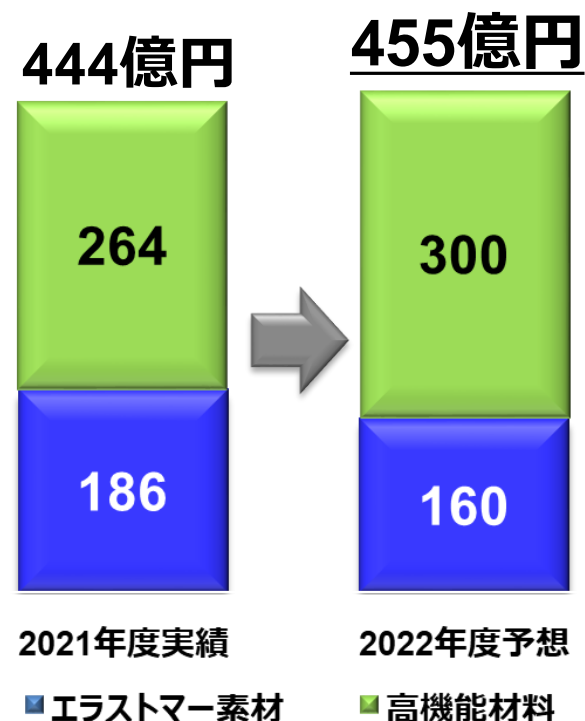
※2022年度上期着地予想は、2022年度業績予想に対する見立て



## 【売上高予想】



## 【営業利益予想】



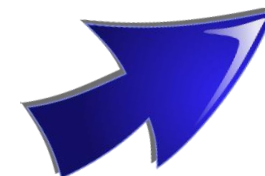
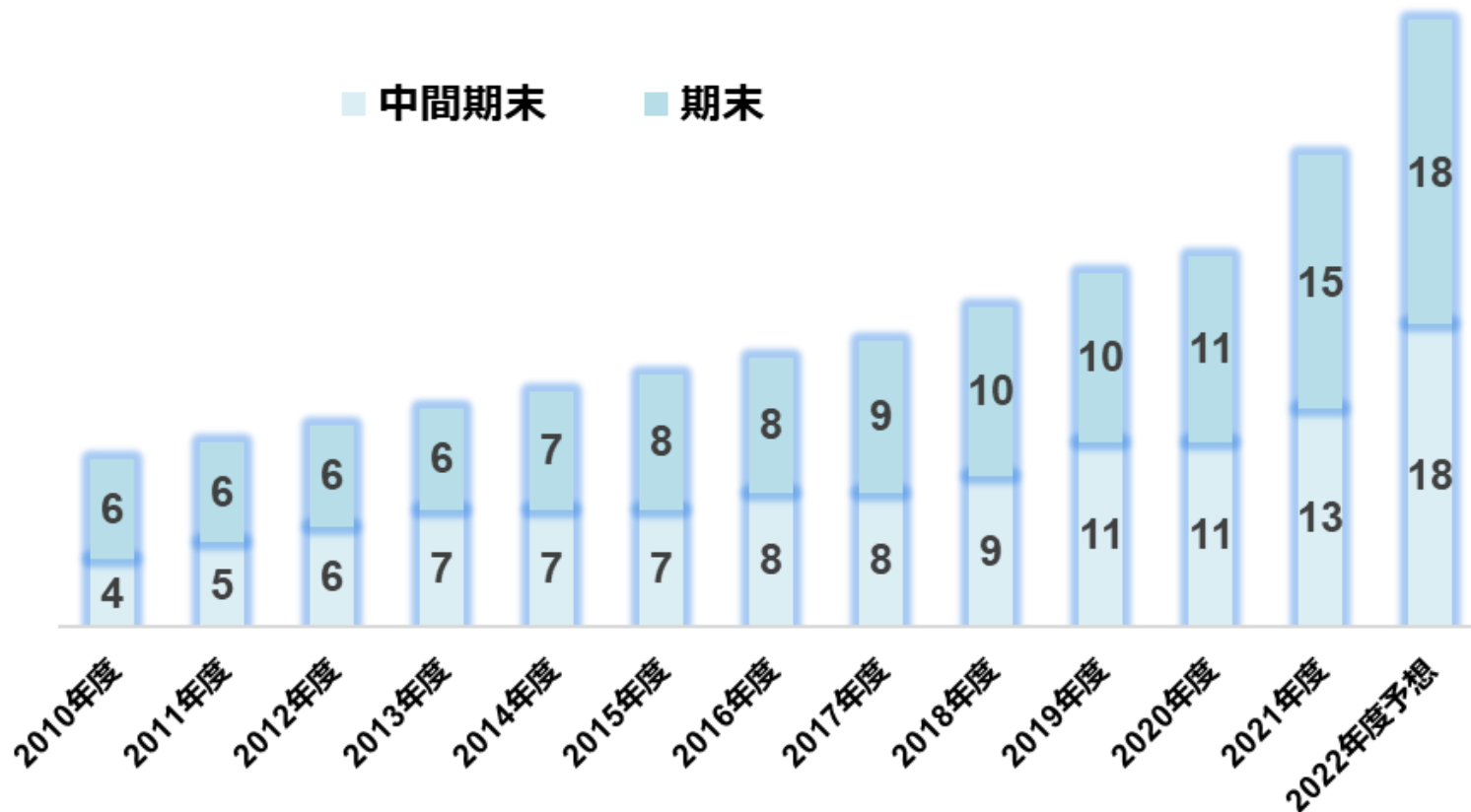
### ■ 当初予想を据え置く

### ■ 為替・原料価格を直近の値に修正した場合も、上期予想値は変わらず

#### 2022年度業績予想前提(4/27時点)：

- ・US\$=120円、€=135円、国産ナフサ=¥60,000、アジアブタジエン=US\$1,000
- ・物流状況は2021年度Q4程度
- ・新型コロナウイルス感染症、ロシア・ウクライナ情勢による調達、生産の影響は軽微

【配当金予想、単位：円】



安定的に持続的な  
配当政策を継続  
(方針に変更なし)

## ■ 当初予想を据え置く

2022年度の配当金は中間期末18円、期末18円の36円を予想  
(対前年度比+8円)

本資料に掲載されている当社の計画や見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる結果になる場合があります。

<b>2022年度 Q2決算発表</b>	<b>2022年10月31日（月）を予定</b>
--------------------------	--------------------------

※上記の予定は、都合により予告なく変更する場合がございます

# ZEON

日本ゼオン株式会社

以 上

# 参考：ラテックス 売上高差異（YoY累計）

（単位：億円）



数量差

価格差

為替差

21/Q1  
76億円



22/Q1  
36億円









	2020年度 Q1	2021年度 Q1	2021年度 Q4	2022年度 Q1	YoY 増減	YoY 増減率	QoQ 増減	QoQ 増減率
--	--------------	--------------	--------------	--------------	-----------	------------	-----------	------------

単価

21/1Q=100		100	83	80	▲ 20 pt	▲ 20 %	▲ 3 pt	▲ 4 %
20/1Q=100	100	191	159	153	-	-	-	-

2022年度Q1 (2021年度Q4比)				
事業	出荷	売上	営業利益	事業トレンド
合成ゴム				特殊ゴム出荷増、販売価格改定が進む 修繕費・間接部門費用負担等の減
ラテックス				手袋用ラテックスの流通在庫過多継続 販売価格鎮静化、原料価格高騰
化成品				販売価格改定が進むも、景況悪化で需要鈍る 間接部門費用負担等の減

2022年度Q1 (2021年度Q4比)				
事業	出荷	売上	営業利益	事業トレンド
光学樹脂				光学用途向け需要減 医療その他向け前期まとめ出荷 品目構成差で平均単価は良化 原料価格高騰・評価損増
光学フィルム				スマホ向け中小型フィルム需要回復
電池材料				中国ロックダウンの影響を一部受けるも、 EV向けは堅調

用途	2022年度 当社製品動向		状況変化
	4/27 時点	7/28 時点	
大型TV			世界的な消費マインドの低下 液晶パネル市場在庫調整発生
スマートフォン			エンドユーザーの市場シェア予測から21年度 並みで推移（変化なし）
タブレット			世界的な消費マインドの低下 在宅・教育関連で需要振るわず
ノートPC			タブレットと同様

※2022年度当社製品動向は、当社予測に基づいた見立て

## アップサイド

物流混乱解消

為替の円安化

コンテナ・船の流動化

円安ドル高

物流コスト減

円安ユーロ高

## ダウンサイド

原料状況悪化

半導体不足長期化

ナフサ高騰

新型コロナ再拡大

ブタジエン下落

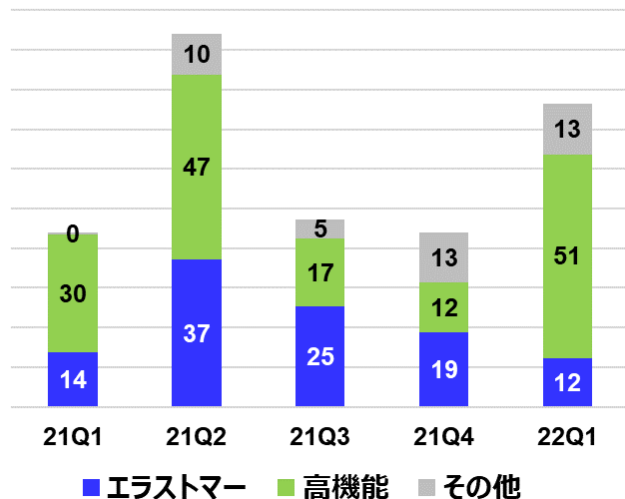
モバイル端末減産



# 参考：資本的支出、減価償却費の推移

(単位：億円)

【資本的支出】

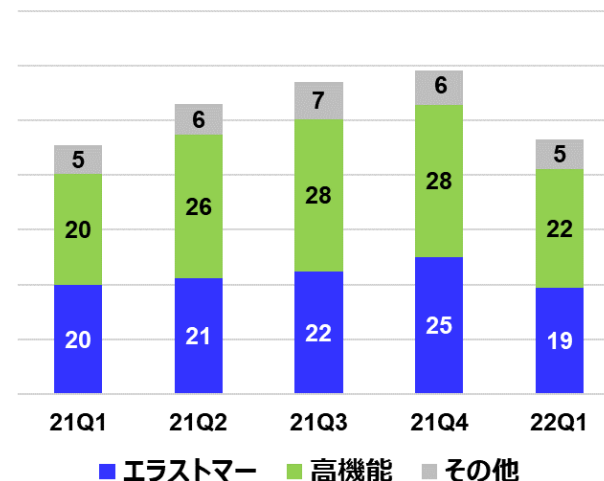


21年度実績  
229億円

↓

22年度予想  
380億円

【減価償却費】

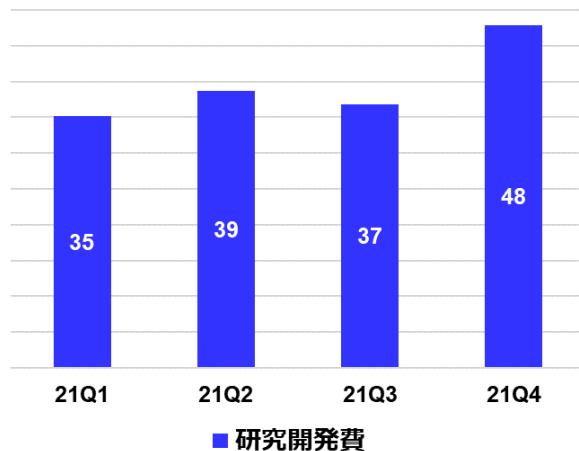


21年度実績  
215億円

↓

22年度予想  
215億円

【研究開発費】



21年度実績  
159億円

↓

22年度予想  
185億円